

# 令和2年度湧別町保健医療福祉協議会

## 第1回食育部会

### 会議録

日時 令和3年1月15日（金）13時30分～

場所 湧別町保健福祉センター会議室

(会議次第)

1. 開会
2. 協議会委員、特別委員へ委嘱状交付
3. 部会長・副部会長の選出
4. 部会長挨拶
5. 協議事項  
「第2期湧別町食育推進計画」(令和3年度～令和7年度)の策定について
6. 今後のスケジュール
7. 閉会

(出席委員)

西川仁史委員、山口甲介委員、高桑誠委員、野田直人委員、森義文委員、古川宏道委員、松浦三代紀委員、佐藤あけみ委員 計8名

(欠席委員)

高橋茂委員、長谷川昌枝委員 計2名

(事務局)

町健康こども課長 星義孝、健康相談グループ主幹 北林孝之、  
健康相談グループ主幹 西海谷ひろみ、健康相談グループ主任 太田美穂

(傍聴者)

なし

(協議てん末)

(1) 部会長・副部会長の選出

部会長 野田 直人 委員

副部会長 高桑 誠 委員

(2) 諮問事項

「第2期湧別町食育推進計画の策定について(令和3年度～7年度)の策定について

○議長 野田部会長

○議案説明 事務局 健康相談グループ 主幹 北林

議案資料に基づき概要説明

○意見・質疑

・計画の推進体制について

高桑委員：

「5 計画の推進体制」(2P)で、学校や地域住民、ボランティア団体とあるが、ボランティア団体とはどのような団体か。

事務局：

合併前に各町にあった食生活改善推進員(旧上湧別町：スプーンおばさんの会、旧湧別町：サロマ湖ヘルシー会)が平成29年に合併し、「ヘルシースプーン会」として活動しています。料理講習会や元気まつりでの試食提供などを行っています。

・第1期計画の振り返りについて

森委員：

第1期計画の基本方針3で「湧別町らしい食生活を実現する食育の推進」(5P)や第2期計画でも基本目標Ⅱの「地場産品と一体となった湧別町らしい食育の推進」と、地場産品や地産地消に関することが掲げられている。しかし、指標は道内産で集計しているが、ここでいう地場産品とは湧別産のものか、道内産か。

事務局：

7Pの学校給食における地場産物の使用割合については道内産という扱いです。

森委員：

地産地消と食育の知識という兼ね合いで、給食の献立に使用している地場産品の食材についてはお知らせされているのか。

事務局：

給食だよりの中に掲載されています。

森委員：

地産地消は地元でとれたものを消費すること、そこが教育では。基本目標の“地産地消”“湧別町らしい”を強調するなら、地場産物の使用割合についても湧別産を指標に盛り込んでもらいたい。

・第2期計画での家庭における食育の推進について

高桑委員：

「④成人を対象とした食生活改善の推進」(11P)のなかで、保健指導や栄養指導はどのように行われているのか。

事務局：

町の総合健診を受けた方の中で健診結果が保健指導の基準に該当した方について個別通知し、この会場や TOM など保健師・栄養士と生活改善のための面談をさせてもらっています。都合の悪い方へは訪問対応などもしています。

また、出前講座などの健康教室についても実施しています。

・第2期計画での生産者団体等による食育の推進について

森委員：

「(5) 生産者団体等による食育の推進」(15P)の部分で、「食の供給源となる農畜水産物や農業の素晴らしさ」とあるが、農業だけではなく「農林漁業」にすべきではないか。「農業体験活動」についても「農林漁業体験」にすべき。

部会長：

全体を通していかがでしょうか。

委員全員：

異議なし

(3) 計画案の修正

- ・(9P) 第2期計画の目標値に学校給食における地場産物(道内産)の使用割合のほか、湧別産の使用割合を加える。
- ・(13P) (5) 生産者団体等による食育の推進の「農業のもつ素晴らしさ」を「農林漁業のもつ素晴らしさ」に、「農業体験活動」を「農林漁業体験活動」に修正。

(4) 今後のスケジュール

- 1) 今回の協議事項を踏まえ計画案を修正、各委員へ郵送。質疑等あれば1月28日(木)まで受ける。  
※各委員より協議が必要な事項が出た場合は部会を開催。
- 2) 2月上旬～パブリックコメントの実施  
※パブリックコメントを経て意見があり、協議が必要な場合は3月上旬に部会を開催。